

Discovery





自由闊達な学風の下、
研究と教育を通じて新たな価値を創造し
人々の幸福に貢献する。



卒業・学位授与者数の累計

197,552名



蔵書数

3,362,929冊

教職員数

3,198名

学生数

15,834名



学部数 9 研究科数 13

学科数 25 専攻数 51



土地面積

3,209,620㎡

建物面積

811,916㎡

収入 127,712 百万円

支出 116,257 百万円



留学生数 2,386名

FACT

名古屋大学の現在

PROGRESS

名古屋大学の歩み



1871

名古屋県仮病院・仮医学校が設置される
(名古屋大学の創基)



1920

名古屋高等商業学校
(のち名古屋大学経済学部、
桜山キャンパス)を設置



1881

後藤新平が
愛知医学校長
兼愛知病院長
に就任



1949

新制名古屋大学として再出発



1960

名古屋大学のシンボルのひとつ
豊田講堂が完成



1990

森重文元教授
(現 特別教授)が
フィールズ賞を受賞



1908

第八高等学校(のち名古屋大学旧教養部、
瑞穂キャンパス)を設置



1939

名古屋帝国大学を創立
写真: 渋澤元治初代総長

2000

名古屋大学の憲法ともいべき
名古屋大学学術憲章を制定

それは1871年から続く、たゆみない挑戦の足跡。
 時代に翻弄されながらも、真理を究めようとする情熱のもと、
 研究者たちは道なき道を開拓し続けています。
 世界を変える新たな一步を、いま、この瞬間も。



2001

野依良治 理学研究科
 教授(現 特別教授)が
 ノーベル化学賞
 を受賞

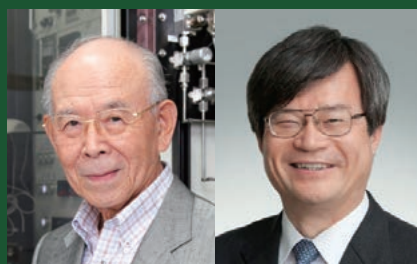


2012

トランスフォーマティブ生命分子研究所が
 文部科学省「世界トップレベル研究拠点
 プログラム(WPI)」に採択



赤崎勇特別教授と天野浩工学研究科教授が
 ノーベル物理学賞を受賞



名古屋大学が採択された文部科学省
 「スーパーグローバル大学創成支援事業」
 が始まる

2014



2018

名古屋大学が文部科学省から
 「指定国立大学法人」に指定



2020

岐阜大学と経営統合し
 東海国立大学機構が発足



2004

名古屋大学が国立大学法人となる



2008

下村脩博士がノーベル化学賞、
 小林誠博士・益川敏英博士が
 ノーベル物理学賞を受賞

2009

名古屋大学が文部科学省
 「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択



2015

名古屋大学が
 国連ウィメンの「HeForShe」キャンペーンの
 「世界の10大学」に選出

名古屋大学の沿革



EDUCATION 教育

優秀な学生をグローバルに活躍する人材へと導くため、
従来の枠にとらわれない新しい教育を提供しています。
次なる勇気ある知識人が、ここから高く羽ばたくために。

卓越大学院プログラム

卓越大学院プログラムは5年一貫の博士課程プログラム。大学院生は、化学と生命科学のように複数の専門が融合する領域の研究に取り組み、産業界や海外の研究チームとの共同研究に参加します。海外での研修やインターンシップなど世界の最前線を経験する機会も多く、研究に専念できるよう経済支援も用意されています。

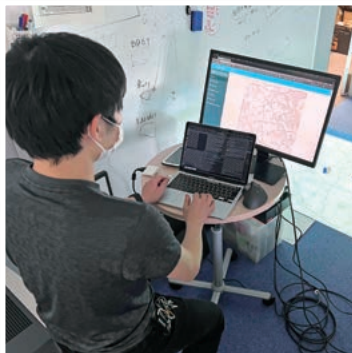
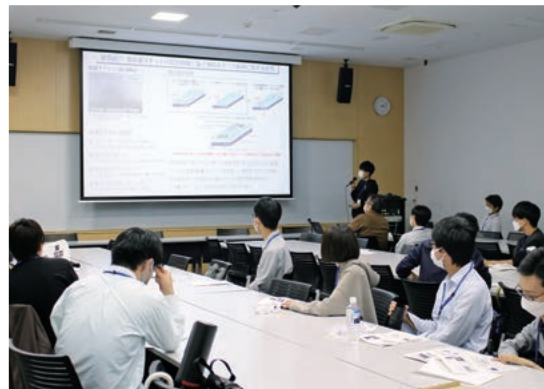
卓越大学院についての紹介



卓越大学院プログラム数

4





博士課程学生を全力支援

大学院生を応援するため、授業料の減免や生活費の支援を拡大しています。博士後期課程の学生への平均支援額は一人あたり年間約173万円。約半数が、一般的に生活費が十分にまかなえる額とされる約240万円の支援対象です。さらに、学内外での雇用や奨学金なども用意し、総合的に支援しています。

博士後期課程
学生一人あたり
の経済支援額

173万円／年

博士課程学生への経済支援

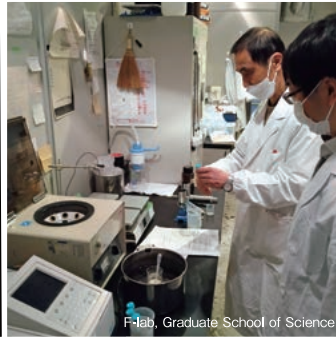


RESEARCH 研究

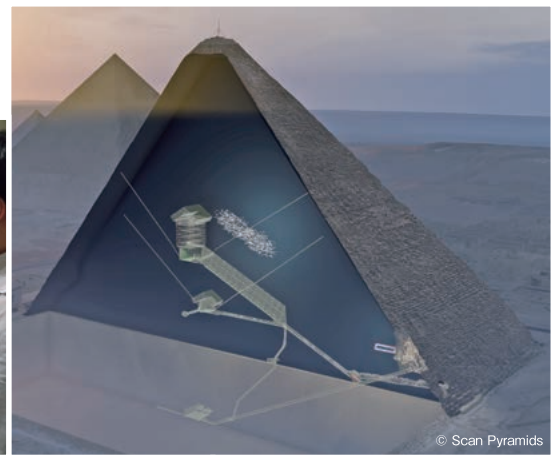
日本全国そして世界から
好奇心あふれる研究者たちが集う梁山泊が、ここに。
目指すのは、世界と伍する研究大学。



© Yoko Mizuta, 2019, 花の中の秘密



F-lab, Graduate School of Science



© Scan Pyramids



世界トップレベルの研究力

6人のノーベル賞受賞者を輩出するなど、世界トップレベルの研究力を誇る名古屋大学。知の成果は社会に還元され、世界を前進させてきました。現在も宇宙地球環境研究所、トランスフォーマティブ生命分子研究所、素粒子宇宙起源研究所、未来エレクトロニクス集積センターなど世界的な研究拠点が集まり、次の地平を拓く研究を繰り返しています。

名古屋大学関係の
ノーベル賞受賞者数

6人

研究成果発信サイト



教員情報検索サイト



学部・研究科/研究施設など



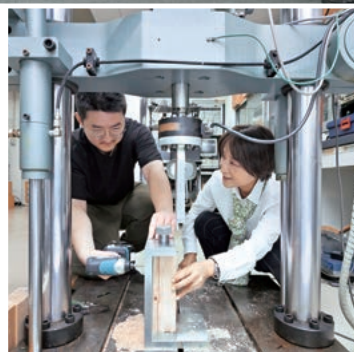
若手も女性も活躍できる研究環境

研究者がのびのびと挑戦的な研究に打ち込める自由闊達な研究風土、仲間と切磋琢磨する環境が名古屋大学にはあります。また、将来を担う若手研究者を育成するYLCプログラム、女性研究者のトップリーダー顕彰などを通じて若手や女性の支援に力を入れ、誰もが活躍できるダイバーシティな研究環境が広がっています。

YLC教員の
延べ採択人数
(平成22年度~令和4年度)

104人

YLCプログラム



DAILY LIFE 学生生活

東山、鶴舞、大幸の3キャンパスを大いに学び、究め、集う空間へ。
 緑に囲まれ、小鳥がさえずる豊かな森も。
 サークル活動にも情熱を燃やす学生たちが
 キャンパスの賑わいをつくりだしています。

キャンパス施設

キャンパスには、学生や教職員のための福利厚生施設が充実しています。健やかな食事が楽しめる食堂、リラックスした時間が過ごせるカフェ、勉強にかかせない図書や日用品などが手に入る売店など、学内に必要な施設が点在し、快適で便利なキャンパスライフをサポートしています。

学内のカフェ・食堂・売店など



学内のカフェ・
 食堂・売店などの数

29





サークル活動

数多くの学生が文化サークルや運動クラブに所属。仲間とともに活動に情熱を傾け、定期演奏会や各種競技会などで成果を残しています。また、毎年6月上旬に行われる「名大祭」は、例年約8万人の来場者を集める東海地区最大規模の大学祭。サークルやクラブによる約100種類ものイベントや研究室の一般公開、授業体験などが行われ、地域に親しまれています。

文化系公認サークル・
体育系公認クラブの数

115

サークル活動一覧
(大学案内2023 p97)



独自奨学金による学生支援

経済的な理由で修学が難しい学生に向けて、大学独自の奨学金制度を設けています。本学卒業生が設立した「下駄の鼻緒奨学金」、民間企業などからの寄附に基づく「ホシザキ奨学金」「エンカレッジメント奨学金」、修学支援事業による「NU奨学金」の4つで、給付金により学生の学びたい意欲を応援しています。

独自奨学金の数

4

COLLABORATION

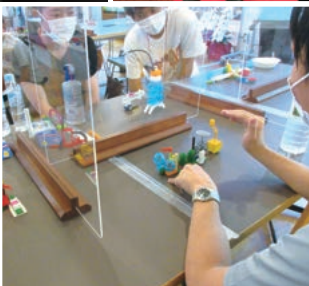
社会との連携

地域に向けた情報発信、産学連携による研究開発、
大学でのアントレプレナーシップ教育、ベンチャー育成など、
これまでにないスタイルで社会との連携が進んでいます。
世の中を驚かす研究成果を、社会へ届けるために。



Tongaliでの
起業家育成教育の
延べ受講生数

4,157人



アントレプレナーシップ教育

東海地区から世界に向けて、新しい価値を創造する人材を送り出すため、アントレプレナーシップ教育に取り組んでいます。東海地区の5大学が参加する「Tongaliプロジェクト」では、未来のアントレプレナーを目指す学生に活動の場を提供。アイデアの創出法や事業化の手法などを学ぶプログラムなどを通じて、起業やその後の事業展開までをサポートします。

Tongaliプロジェクト紹介ムービー



研究者の起業支援

研究の事業化を進めるために、「Tongali(トンガリ)」では研究者の起業支援も充実させています。起業の段階に応じたファンドを創設し資金調達を支援するほか、各種機材やインキュベーション施設を提供。ワークショップや、投資家にアイデアをプレゼンテーションするイベントを開催するなど、新しい人脈を築ける環境を整えています。

研究活動の紹介

名古屋大学は、社会に研究や教育を発信するアウトリーチ活動に力を入れています。2011年には、サイエンスとものづくりを気軽に楽しむ文化をつくる目的で、「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク」を発足。名古屋大学をはじめとする地域の27の大学や社会教育施設が参加しています。夏休みと秋に開催される「あいちサイエンスフェスティバル」は、子どもも大人も楽しめる催しが好評を博し、2022年には参加者が77万人を超え、人気のイベントとなっています。

あいちサイエンス・
コミュニケーション・
ネットワーク
参加機関数

27

研究情報発信・社会連携



産学共同研究の進展

さまざまな社会課題の解決を図るために、企業と連携した産学共同研究を進めています。大学と企業の研究者が一つ屋根の下に集結し、これまでの枠を越えて連携。新しい未来の実現を目指す研究を展開しています。高度な研究力への期待は、多くの外部資金や優れた人材を集め、さらなる教育研究、社会貢献の推進につながっています。

産学協同研究センター・
産学協同研究講座・
産学協同研究部門
設置数

36

産学協同研究センター
などの設置数



学術研究・
産学官連携推進本部
ホームページ



GLOBAL 国際連携

世界トップ大学との連携、英語による講義の提供、
留学プログラムの充実など、教育のグローバル化を進めています。
各国の学生や研究者が行き交い、
世界とつながるキャンパスが、ここに。

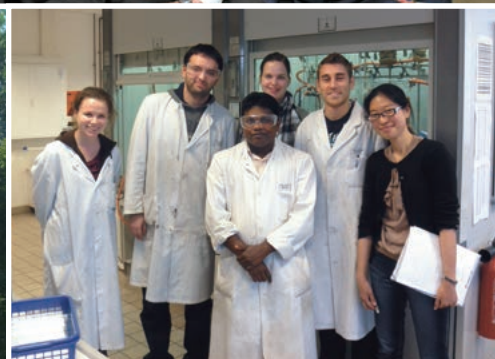


ジョイント・ディグリープログラム

名古屋大学は2015年、日本初となる「ジョイント・ディグリープログラム」を開始しました。世界トップ大学と連携して専攻レベルで研究・教育を行い、合同学位審査によって国際的にも質の保証された博士学位を授与、日本のフロントランナーとして国際標準の教育を拡大しています。これらのプログラムを通じた国際共同研究や共著論文の増加が期待されています。

全国のジョイント・
ディグリープログラム
のうち、名古屋大学で
実施している割合

25%





キャンパスの国際化

名古屋大学は2,000名を超える留学生が学ぶ、グローバルキャンパスです。英語で学位を取得できるG30国際プログラムを設け、世界各国の留学生を受け入れています。NU-EMIプロジェクトでは、G30の講義を受講する日本人学生をサポート。留学生と日本人学生がともに英語で学び、国内にしながら留学の感覚が得られます。

NU-EMIプロジェクト



留学生の
出身国
(地域)数

104

海外留学プログラム

「卒業・修了までに様々な海外での経験を目指す」を目標に、海外留学プログラムを充実させています。長期の交換留学プログラムや短期海外研修などに多くの日本人学生が参加し、コミュニケーション力の向上はもちろん、多様性に富んだ世界で活躍するための視野や価値観を養っています。専門教員による留学指導・教育を実施し、年間1,000名以上の学生が利用しています。

交換留学プログラムで留学できる協定校

128

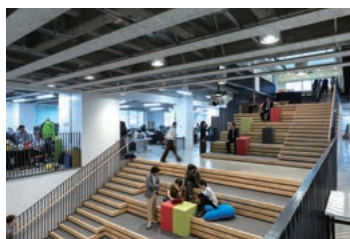
校・機関

海外留学室



世界水準の サステイナブルキャンパスへ

名古屋大学は「世界水準のサステイナブルキャンパスへの創造的再生」をテーマに、30年先を見つめたキャンパスマスタープランに基づき、施設整備を進めています。環境に配慮した先進的な建築群が並び、最先端の学びや研究を行うにふさわしい魅力的なキャンパスが広がっています。



CAMPUS

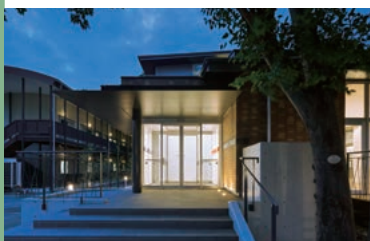




写真:医学部附属病院提供



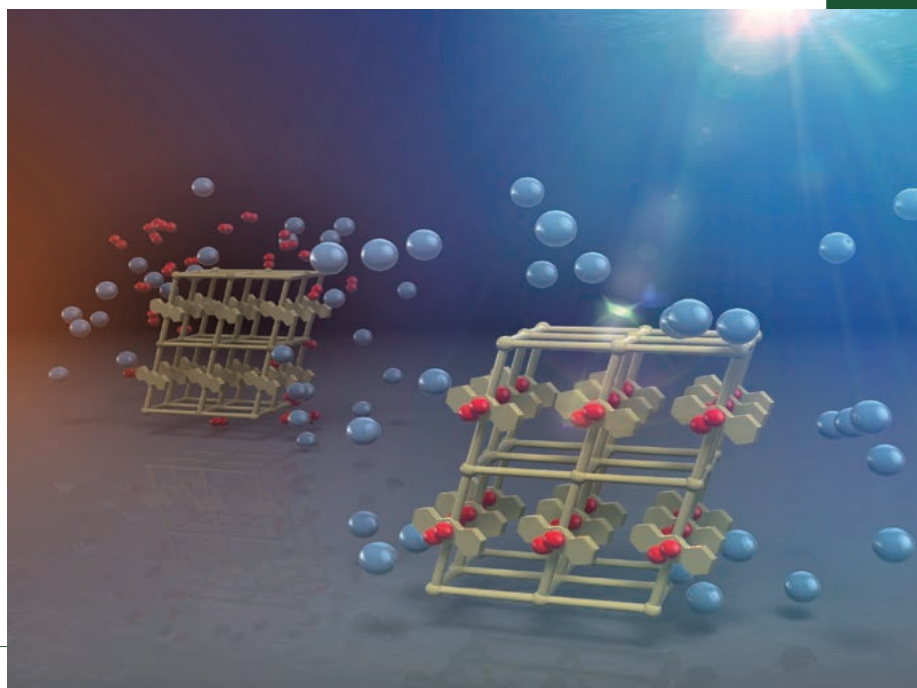
キャンパス
マスタープラン2022



セキユアでユビキタスな 資源・エネルギー共創拠点

「消費から“変環”へ～無理なく楽しく、資源・エネルギーを皆で共創し、資源のない日本を資源国に～」をビジョンに掲げ、従来の生産・消費・廃棄の概念を変革し、未利用だった資源・エネルギーに価値を見出し利活用する“変環(変換×循環)”をキーワードに、市民自らが生産に参加し、資源・エネルギー自立型共創社会を目指しています。

どこにでもある未利用資源・エネルギーの価値化・見える化、まちでの未利用資源・エネルギーの利活用、“変環”ライフスタイルの醸成と教育を実施していきます。



P R O J E C T

共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)



地域を次世代につなぐ マイモビリティ共創拠点

「みんなの『行きたい』『会いたい』『参加したい』をかなえる超移動社会」をビジョンに掲げ、マイカーを使わない人にも社会に公平なアクセスができるような超移動社会を目指しています。

先進モビリティ技術とモビリティアセットの共有化という技術及び制度のイノベーションと総合知活用によって、誰でも快適に移動できる地域モビリティシステムを実現し、持続的な地域創生を推進していきます。

※共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)

未来のあるべき社会像(拠点ビジョン)を策定し、その実現に向けた研究開発と持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す科学技術振興機構(JST)の産学連携プログラム。

未来社会創造機構
ホームページ





総務部総務課広報グループ

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

<https://www.nagoya-u.ac.jp/>

発行年月/2023年3月